10年後をリードする　未来企業　105

「きっと着物が好きになる。和のテーマパーク」をコンセプトに着物業界の若返りを目指す!!

福島県須賀川市にある着物専門店「おしゃれ劇場」。父が創業したこの呉服屋を継いだ菅野陽平社長は、サービス部門を強化し、斜陽産業ともいわれる着物業界の業態転換と若返りをはかっている。はたして、その取り組みはどのようなものなのか。㈱ブレインマークスの塚本祐馬氏が、菅野社長の夢と思いにアプローチした。

菅野陽平
かんの・ようへい

株式会社おしゃれ劇場
代表取締役

1979年生まれ。福島県立須賀川高等学校卒業。日本大学に入学するも半年で中退し、とくに目標もないまま東京で5年間、食事・販売業、水商売などを経験。その後、家業の呉服店を継ぐために取引先の着物総合加工会社(仙台市)にて修行。2004年に㈱おしゃれ劇場に入社。10年に代表取締役に就任して以来、さまざまな事業を立ち上げている。

塚本祐馬・ブレインマークスビジネスコンサルタント　「おしゃれ劇場」とは、どのような事業を行っている会社なのでしょうか。

菅野陽平・おしゃれ劇場代表取締役　「きっと着物が好きになる。和のテーマパーク」をコンセプトに、着物の販売やレンタル、着付け、手入れのほか、着物を通じて生活を豊やかに彩るお手伝いをしています。

塚本　着物の販売以外にもさまざまなビジネスを展開されているようですが、どのような経緯でそういった事業をはじめたのでしょうか。

菅野　実家の呉服屋を承継した後、「斜陽産業といわれる着物業界を元気にしたい」という一心でつぎつぎとあらたなビジネスを立ち上げてきました。小売以外のサービスにも興味があったので、学びやエンターテインメントなどの要素を取り入れることで、仕事の幅を拡大していこうと考えたのです。

塚本　それにしても、なぜ着物業界は斜陽産業といわれるようになったのでしょうか。

菅野　どの呉服店にもいえることですが、若者の着物ばなれが大きいです。ついで、主要客とスタッフの高齢化も大きいですね。主にはそういったことが原因となって、事業の存続が危うい状況になっているのだと思います。そこで、当社は従来の呉服屋という事業形態からの脱却を目指し、まずはお客さまとスタッフの若返りをはかろうと考えたのです。それで、その一環として成人式や七五三、結婚式といったイベントで記念撮影ができるフォトスタジオを設置してみたのです。すると、若い人たちからも「着付けしてもらってすぐに撮影してもらえるのはありがたい」と好評で、手応えを感じることができました。

フォトスタジオでの撮影風景

塚本　フォトスタジオのほかに、どのようなサービスをはじめたのですか。

菅野　着付け教室を開催したり、着付けの際に関連小物などを提案したりしています。また、実店舗やホームページを通じて、着物の知識とともに取引先である会津地の織り手さんや作家さん、問屋さんなどの声をお客さまに届けることにも挑戦しています。こうした取り組みの積み重ねで、着物を楽しんでくれる層が少しずつ増えてきていると思います。

塚本　あらたな取り組みを行うなかで苦労はありますか。

菅野　父から事業を継いだ当初は経営者としても初心者だったので、まずは経営の基礎を学ぶ必要がありました。ところが、事業を継いだ翌年の2011年に東日本大震災が発生し、観光どころか、仕事を思うようにすすめることすらできない状態に陥り、資金繰りの面でも相当の苦労を強いられることになりました。

塚本　当初から危機的状況に追い込まれたのですね。

菅野　そうです。しかも、当時の私は「社員と気持ちを合わせることができていないのではないか」という、コミュニケーションに関する不安も抱いていました。新しいことをはじめるには自分の頭のなかにあるビジョンを社員に明確に示す必要がありますが、それをスムーズにすすめられる自信がなかったのです。

塚本　その状況をどうやって打開していったのですか。

菅野　社員との対話を通じて、「きっと着物が好きになる。和のテーマパーク」というコンセプトを掲げられたのが大きかったですね。そのおかげで、ようやく社員たちと明確な目標を共有できるようになりました。実際、それ以降、つぎつぎとあらたな事業を展開することができましたし、社員も率先してあらたなアイデアを出してくれるようになりました。

ヘアセットや振袖のコーディネートの様子

塚本　今後の目標についてお聞かせください。

菅野　当面はあらたに取り組みはじめた事業を拡大しつづけたいと思います。そのためには「斜陽産業だから」「地方だから」「小規模企業だから」といった言い訳を並べるのではなく、着物業界を前向きに盛り上げようとする人材を育てていかなければならないので、あらためて「お客さまに着物を楽しんでもらおう」という価値観を社内で浸透させ、スタッフの自主性をさらに育んでいきたいと考えています。

塚本　前向きなお話にこちらも元気をいただくことができました。その調子で着物業界に新風を吹き込んでくれることを願っています。

若返りをはたしたスタッフの皆さん

塚本祐馬
つかもと・ゆうま

株式会社ブレインマークス ビジネスコンサルタント

大手化学品メーカーで法人営業を担当。「業績を上げつづける仕組みづくり」に心血を注ぎ、多くの実績を上げてきた。クライアントが漠然と感じている課題を特定し、仕組みを通じて解決することを得意としている。とくに経営計画書の作成やPDCAサイクルの仕組みづくりをベースにした支援スタイルは、クライアントから高い評価を受けている。

10年後のためのアドバイス!

着物ばなれを背景に需要減がすすみ、斜陽産業と呼ばれるようになった着物業界。その市場規模は全盛期(1980年代)から7分の1近くにまで縮小したといわれており、最近では新型コロナウイルスの影響でマイナス幅が拡大するといった調査レポートも出ています。

しかし、外国人の着物への関心は高く、コロナ禍が落ち着けば、インバウンドを中心としたレンタル着物やレンタル着物を活用した体験型観光・イベントなどに大きな可能性があると思います。また、日本人向けには従来の様式にとらわれないデザインの着物や浴衣の着物風アレンジなどが注目されており、こちらにも消費拡大の可能性があるように感じられます。おしゃれ劇場はこういったトレンドも視野に入れ、積極的に人材育成に取り組んでいるので、10年後、20年後には着物業界をリードする存在になっているかもしれません。そういった点も念頭に入れながら、ブレインマークスとしてはまず人事労務の仕組みづくりなどを全力でサポートしていきたいと思います。